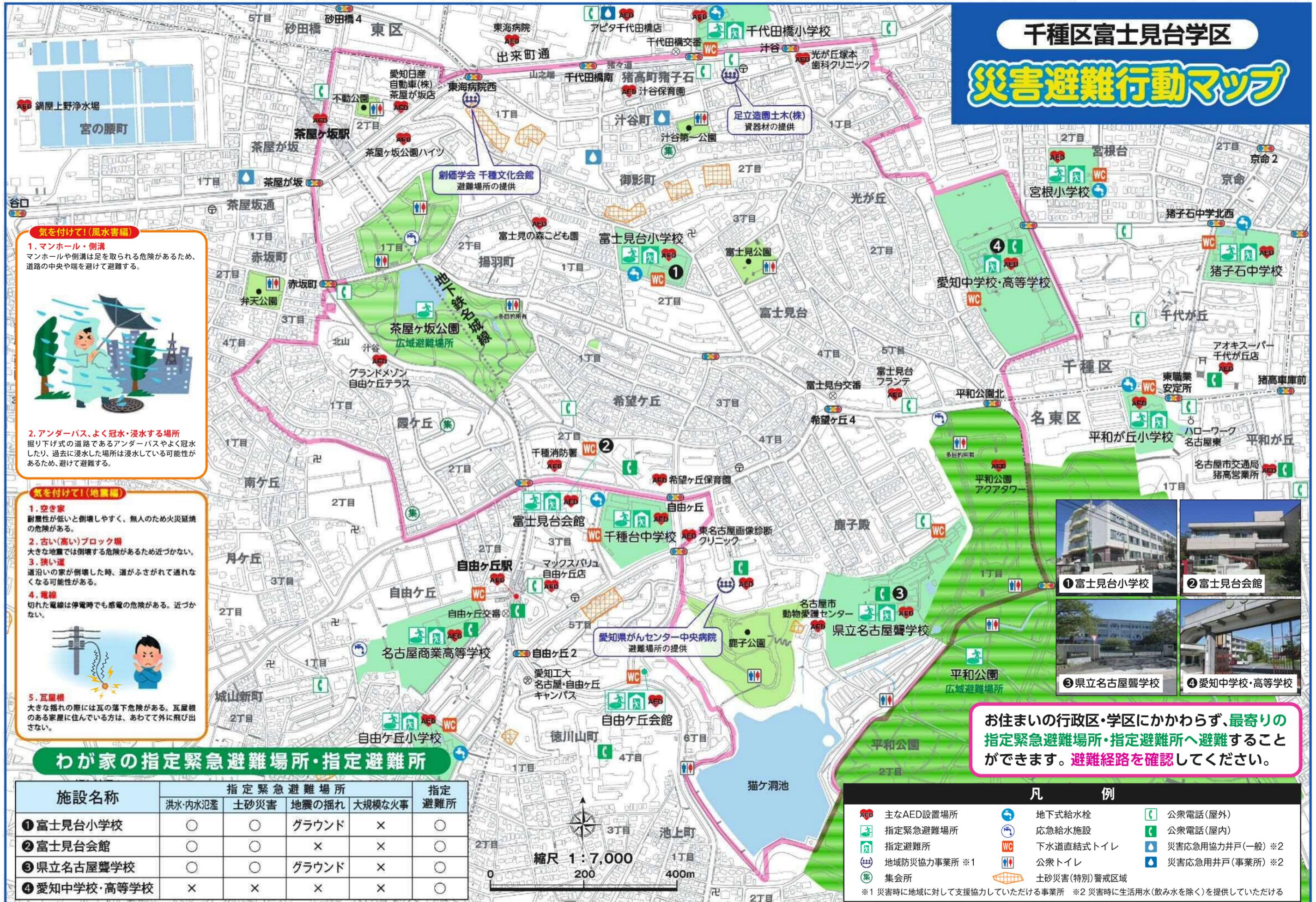


千種区富士見台学区 災害避難行動マップ



気を付けて!(風水害編)

1. マンホール・側溝
マンホールや側溝は足を取られる危険があるため、道路の中央や端を避けて避難する。



2. アンダーパス、よく冠水・浸水する場所
掘り下げ式の道路であるアンダーパスやよく冠水したり、過去に浸水した場所は浸水している可能性があるため、避けて避難する。

気を付けて!(地震編)

1. 空き家
耐震性が低いと倒壊しやすく、無人のため火災延焼の危険がある。

2. 古い(高い)ブロック塀
大きな地震では倒壊する危険があるため近づかない。

3. 狭い道
道沿いの家が倒壊した時、道がふさがれて通れなくなる可能性がある。

4. 電線
切れた電線は停電時でも感電の危険がある。近づかない。



5. 瓦屋根
大きな揺れの際には瓦の落下危険がある。瓦屋根のある家屋に住んでいる方は、あわてて外に飛び出さない。

わが家の指定緊急避難場所・指定避難所

施設名称	指定緊急避難場所				指定避難所
	洪水・内水氾濫	土砂災害	地震の揺れ	大規模な火事	
① 富士見台小学校	○	○	グラウンド	×	○
② 富士見台会館	○	○	×	×	○
③ 県立名古屋聾学校	○	○	グラウンド	×	○
④ 愛知中学校・高等学校	×	×	×	×	○



お住まいの行政区・学区にかかわらず、**最寄りの指定緊急避難場所・指定避難所へ避難することができます。避難経路を確認してください。**

凡 例

主なAED設置場所	地下式給水栓	公衆電話(屋外)
指定緊急避難場所	応急給水施設	公衆電話(屋内)
指定避難所	下水道直結式トイレ	災害応急用協力井戸(一般) ※2
地域防災協力事業所 ※1	公衆トイレ	災害応急用井戸(事業所) ※2
集会所	土砂災害(特別)警戒区域	

※1 災害時に地域に対して支援協力していただける事業所 ※2 災害時に生活用水(飲み水を除く)を提供していただける

千種区 富士見台学区

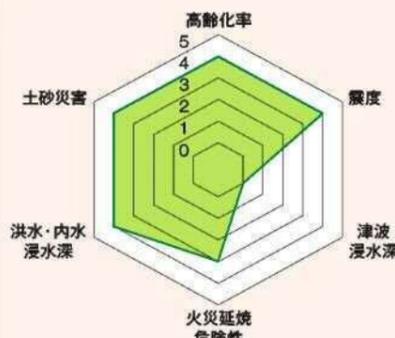
世帯：6,516世帯 人口：15,307人 面積：1.673 km² ※令和3年1月1日現在の世帯数と人口より

特性と災害リスク

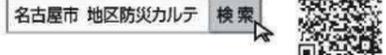
富士見台学区では南海トラフ巨大地震が発生した場合、最大で**震度6強**の激しい揺れが予想されます。まずは身を守り、日頃から家具の転倒防止などの耐震に努めましょう。学区内の一部では地震による**液状化**や大雨による浸水のリスクがみられます。また、地震・大雨により**土砂災害**の恐れがある土砂災害(特別)警戒区域もあります。

リスクレーダーチャート (地域特性の把握)

	値	5段階
高齢化率	25.2%	4
震度	6強	4
津波浸水深	0m	0
火災延焼危険性	500~1,000棟未満	3
洪水・内水浸水深	2.0m~3.0m未満	4
土砂災害	警戒区域に人家50件以上	4



このレーダーチャートは、市ウェブサイトに掲載されている「地区防災カルテ」における、富士見台学区のリスクを抜粋したものです。家族や町内会・自治会で防災について、話し合う際には「地区防災カルテ」をご活用ください。



感染症を踏まえてのポイント

① 災害リスクの確認

まずはお住いの災害リスクをハザードマップ、地区防災カルテで把握し、浸水などで避難が必要なかどうかを確認しましょう。避難の際には災害の種類ごとに適した指定緊急避難場所に避難してください。

② 避難=避難所に行くことではありません

避難とは「難」を「避ける」こと。安全な場所にいる人まで指定緊急避難場所・指定避難所に行く必要はありません。

指定緊急避難場所：災害発生時に命を守るため、まずは逃げるための場所
指定避難所：自宅が被災して帰宅できない場合、一定期間、避難生活を送るための場所

在宅非難のススメ

自宅が安全な場合は、自宅にとどまることが避難になります。自宅が危険な場合は、親戚や知人宅へ避難することも考えてみましょう。住宅の耐震化や、家具等の転倒防止対策を行いましょう。



③ 非常持出品の見直しをしましょう

保存食・常備菜・飲料水(7日分が目安)などを自宅に備蓄していますか？ 感染症対策に非常持出品に次のものを加えておいてください。



非常持出品に加えるもの

- ・マスク ・アルコール消毒液 ・体温計 ・スリッパまたは上履き ・ゴミ袋 など
- ※その他の非常持出品はハザードマップなどで確認できます。

地震時の行動

揺れた!!

- 身の安全の確保
- ・頭を守り揺れがおさまるまで待つ
- ・安全に消せる場合は火を消す
- ・家具や家電の転倒や落下、ガラスの破片などに注意



自宅の耐震化や家具転倒防止対策を進めておきましょう。

机がない時は、クッション、かばんなど物で頭を守りましょう。

提供：効果的な防災訓練と防災啓発委員会

揺れがおさまった!!

- ・火の元の確認、出火したら初期消火
- ・怪我をしないように底の厚い靴やスリッパを履き、出入口の確保
- ・家族の安否・家屋の被害状況の確認
- ・テレビ・ラジオ・スマホなどから正しい情報入手
- ・非常持出品の準備

町内会・自治会単位に結成された自主防災組織があり、災害時に初期消火・救出救護等を行う自主防災組織の活動にご協力をお願いします。

災害のおそれがなくなった!

(自宅に住めるか)



在宅避難

緊急避難を

◆自宅に住めるなら、なるべく自宅で避難生活を!

避難所は多数の方が避難生活を送るため、大きな負担がかかることが想定されます。倒壊などの危険がない場合は自宅で避難生活を続ける「在宅避難」を考えましょう。その際は、下記のことを心がけましょう。



- 高齢者や障害者などの避難誘導を
- 食料・飲料・必需品を持って、原則、徒歩で避難



風水害時の行動

3日前

台風が発生した 情報収集

- ・テレビ・ラジオ・スマホなどから台風の大きさ・強さや川の水位などの情報入手

2日前

台風や大雨が来るぞ!! 準備

- ・避難ガイドやハザードマップで指定緊急避難場所、指定避難所や浸水想定区域等の確認
- ・家族との連絡方法の確認
- ・家の周りの飛ばされやすいものや、流されやすいものの片付け



1日前

雨足が強くなってきた!! 避難の判断

- ・情報収集を続けて、避難開始時期を判断



- ・50cm以上の浸水時は避難に危険が伴うため注意
- ・自主的に避難する場合には、事前に区役所へ連絡する

- 洪水・内水氾濫の想定浸水深より下の階にいる
- 土砂災害(特別)警戒区域にいる
- 堤防の近くで、安全な建物*にいない ※鉄筋コンクリート造

どれか一つ以上該当する

該当しない

自宅などにとどまる

命を守るために避難行動を!! 避難開始

避難情報
 ・内水氾濫・洪水・土砂災害などの災害の発生が差し迫り、住民に避難を促す必要がある場合に、名古屋市が発令する情報



警戒レベル
 ・避難情報等に付される5段階の数字で、災害発生の危険度と、住民がとるべき避難行動を関連付けるもの。

- 警戒レベル4で全員避難
- 警戒レベル4の避難情報が発令された場合は、レベル5を待たずに指定避難場所への避難や建物上階へ垂直避難をするなど避難行動をとりましょう。

・気象庁からは大雨警報などの防災気象情報が発表されますので、避難行動のために参考にしましょう。

土砂災害からの避難

大雨や地震などをきっかけとして、かけ崩れや地すべりなどの土砂災害が発生することがあります。土砂災害には前兆現象がある場合もあります。土砂災害(特別)警戒区域では、特に危険性が大きいので、いざという時に適切な避難行動がとれるように考えておきましょう。



土砂災害(特別)警戒区域外の少しでも安全なところに緊急避難!
 ●土砂災害の避難情報が発表された学区では、土砂災害(特別)警戒区域の区域外に避難する。
 (土砂災害(特別)警戒区域は、ハザードマップ等で確認できる)

《土砂災害警戒情報》

大雨警報(土砂災害)発表後に土砂災害の危険がさらに高まった場合に、市町村単位で都道府県と気象庁が合同で発表

《土砂災害警戒判定メッシュ情報》

大雨による土砂災害の危険度の高まりを、地図上で1km四方の領域(メッシュ)ごとに5段階に色分けして示す情報
 (気象庁ホームページで確認できる)



《土砂災害の主な前兆現象》

- 斜面にひび割れや膨らみなどの変形が見られるとき
- 斜面から水が噴き出してくるとき
- 水が濁ったり、水量が急に減るとき
- 木立が不揃いになったり、井戸の水が濁るとき
- 斜面から石ころが落ちるとき